

高性能林業機械の開発・改良

～生産コストの低減～

国際競争力に強い林業に育てるためには、生産コストの低減を図る必要があります。そのため、高性能機械の導入とこれらを組み合わせた伐出から更新までの作業を、効率的に行う作業システムの開発が急がれております。

林業試験場では、昭和62年度から高性能新機種種の作業能率・安全性の評価や、作業システムの研究に着手しました。

平成2年度からベースマシーンを導入し、メーカーと提携して枝払い、玉切りをスムーズにできるプロセッサの開発・改良に取り組むほか、急斜地用の自走式簡易集材機（リモコン操作のタワーヤーダ）の改良や、高性能機械の周辺機器として、リモコンウィンチやロボットなどの開発に取り組むことにしています。



プロセッサによる枝払い・玉切り



タワーヤーダによる集材



ロードセルによる最大けん引力の計測



スキッダによる集材